

えちご堀之内 歴史散策まっぷ

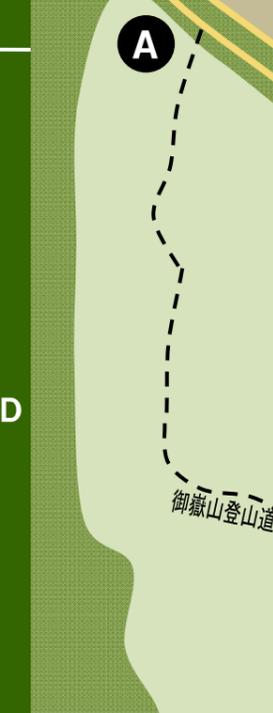
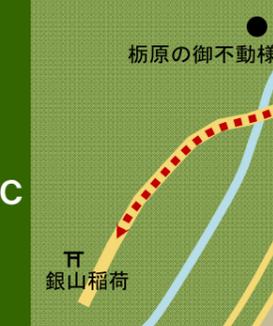
0 100 200 300 400 500m



堀之内の地名と由来

堀之内町史によると、「堀之内」という地名は『越後資料 天文21年12月』に、「景虎、故多却小三郎の所領越後堀之内等を知行せしむ」とあり、これが「堀之内」という地名を確認した最初と記されています。

また、名前の由来については、その昔、魚野川は、大石の本村下崖地より山裾を流れて吉水（今の正安寺下）を曲折し徳田へと流れていて、いわば川が湾曲していたところなので、「ほりのうち」という地名になったという説が有力です。





皇大神宮
1361年、伊勢神宮御師の一志太夫が勧請したと伝えられ、以来、近郷、近在の崇敬を集めてきました。戦国時代には上杉家の厚い信仰が寄せられ、その祈願所であったともいわれます。関ヶ原後、上杉家の会津から米沢への移封とともに、分祀された皇大神社が祀られています。また江戸時代には、その社務所（御旅屋）は**伊勢屋**と呼ばれ、旅籠として宿場町の機能を担い、賑わっていました。



喜楽座跡
かつて一志太夫が旅屋にしていた伊勢屋は、明治になって小学校に転用後、丸屋の宮戎兵衛が譲り受け、喜楽庵や生糸の製紙工場等に利用された後、警察庁舎にも活用されました。大正の半ば以降になると、新派劇の興行師によって経営され、いつしか喜楽座と呼ばれるようになり、芝居や活動写真の常設館となりました。当時の喜楽座は、町の文化の中心的な役割を果たしていたようです。（資料、写真：堀之内町史）

宿場町～堀之内宿～

江戸時代、三国街道の越後一八宿の一つとして栄えた『堀之内宿』は、宿場の街道沿いや小路沿いに家々が並び、多くの人々が往来し、大変賑わっていました。縮の集散地として諸国から商人や仲買人が行き交い、また、近郷からは、皇大神宮と八幡宮という二つの神社への参詣のために来る人々も大勢いました。堀之内宿は、妻有道（田川入街道）が三国街道と分かれるところから、まっすぐ東に延びて、諏訪神社の前でかぎの手に曲がり、魚野川の土手の手前でもう一度東に折れ曲がる所まで、街道を挟んで両側に屋敷が並んでいました。中町を中心として、下町と上町を加えた三町で構成され、中町の両側には、防火のため幅六間の小路を含む空地で区切られていました。下町には郷元、中町には本陣がありました。宿場の中心部におかれる高札場は、中町と下町の中間の空地に、街道に面して南向きに建てられていました。

高札場跡

幕府や領主の最も基本的な法令を書き記した木の札（高札）を掲示した施設。村の中心や主要な街道が交錯する交差点といった人通りの多い場所に設置されていました。

本陣と郷元

本陣は、大名や旗本、幕府役人、勅使等の宿泊所として指定された家。商業的な宿泊施設ではなく、その地の有力旧家の邸宅が本陣として指定されました。郷元は、魚沼郷の庄屋の取りまとめ役でした。

正安寺

浄土宗京都知恩院の末寺。文政3（1820）年の絵図面によれば、正安寺は堀之内本町裏側の、皇大神宮の参道と長兵衛小路との間にあったといわれています。

十王堂跡

冥土で亡者の罪を裁く十人の判官「十王」様をお祀りしたお堂がありました。

願念寺

浄土真宗本願寺派。浄土真宗では開祖親鸞が聖徳太子を崇拝したことから、当境内にも御太子様を祀る太子堂があります。太子講もつくられ、多くの崇拝者を集めました。徐々坊の実兄・巨鳩坊が建てた翁塚があります。

普賢寺

南魚沼市の曹洞宗雲洞庵の末寺。寺内には、火事で焼失した春日平にあった内鎮守春日神社のご神体が祀られています。

天宗寺

開祖は大石播磨守綱元。居館には播磨守の内鎮守といわれる十二神社があります。

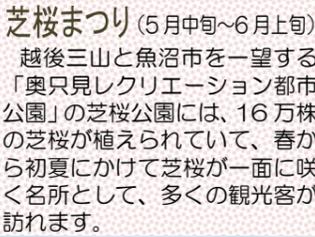


八幡宮

敷神郷（水無川下流域から現在の川口までの範囲）、堀之内村の鎮守として、皇大神宮とともに、古くから多くの人々に親しまれてきました。この宮に合祀される股倉神社は、かつて魚野川河畔にありましたが、1650年の大洪水に遭い合祀されました。また、宮林（山ノ手町）にあった天神社も、1677年の火災で合祀されたと伝えられていて、この三社の合殿によって「三社の宮」と呼ばれています。秋の「十五夜まつり」祭礼の記述は元禄時代の記録にもみられ、古来の由緒を伝えていいます。



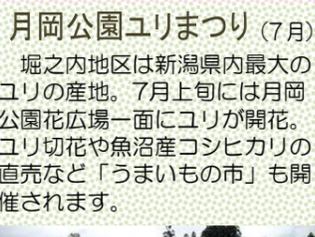
皇大市（5月～10月第1日曜日）
皇大神宮と伊勢小路、よつげ亭前で、5月～10月の第1日曜日に行われている市。旬の野菜や山菜、地元の食品、趣味の手工芸品等の出店が並び、新たな賑わいが生れています。



芝桜まつり（5月中旬～6月上旬）
越後三山と魚沼市を一望する「奥只見レクリエーション都市公園」の芝桜公園には、16万株の芝桜が植えられていて、春から初夏にかけて芝桜が一面に咲く名所として、多くの観光客が訪れます。



大の阪（8月14～16日）
盆踊り「大の阪」念仏踊りといわれるように、どの歌詞にも「南無西方」の文句が入り、踊りも左廻りで進む仏教に因んだ精霊踊りの一種です。国の重要無形文化財に指定されています。



月岡公園ユリまつり（7月）
堀之内地区は新潟県最大のユリの産地。7月上旬には月岡公園花広場一面にユリが開花。ユリ切花や魚沼産コシヒカリの直売など「うまいもの市」も開催されます。

えちご堀之内 伝統の祭りは‘一見の価値あり’

堀之内の人々は、伊勢神宮の遥拝所として勧請された皇大神宮や、この地域の鎮守として親しまれてきた郷社（敷神郷）八幡宮等に伝えられている、祭りや芸能等の歴史ある文化を、地域で守り、受け継いでいます。

2月、八幡宮に伝えられる「雪中花水祝」は、北越雪譜に冬の奇祭として描かれ、8月の盆踊り「大の阪」は、堀之内が三国街道の宿場町として栄えた頃に伝えられた幽玄な踊りで、県の無形文化財、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

9月に行われる「十五夜まつり」は、京都から伝えられた伝統の踊りを屋台で披露する「踊り屋台」、各町内特有の囃子を奏でる「屋台囃子」など、歴史感漂う独特の風情があり、最終日の「神輿流し」は祭りのクライマックスを勇壮に飾ります。

堀之内十五夜まつり

（敬老の日の前週の金曜日～日曜日）
踊り屋台や屋台囃子・神輿パレードなど、堀之内のまちが祭り一色に染まります。なかでも魚野川の流れを下る神輿流しは勇壮です。



お神送り、お神迎え（11月1日、12月1日）
旧暦の神無月11月1日に神様を出雲へお送りし、12月1日にお迎えする神事で、「近郷の神様は堀之内の皇大神宮に集まってから出雲に出発される。」とも言い伝えられています。

鳩まつり（2月15日）

八幡宮の春季例大祭。この日は「春祭り」や「鳩祭り」などと呼ばれ、シンコ餅でつくられた色とりどりのかわいいうまが水木枝に飾られ、売り出されます。



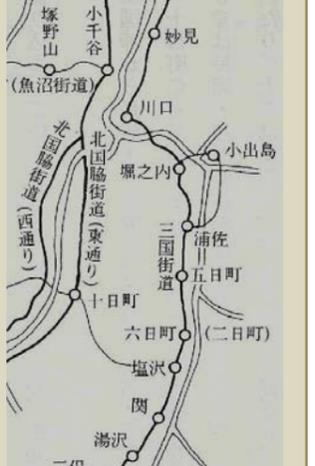
雪中花水祝（2月11日）
八幡宮に伝えられる冬の奇祭。前年に結婚した新婦に冷水（花水）を頭からかけ、子宝、子供の成長、夫婦和合を祈る行事で、明治6年を最後に途絶えていましたが、昭和63年に復活し受け継がれています。

三国街道と堀之内宿

江戸時代初め頃の正保国絵図によると、三国街道は、上州境の三国峠から長岡までの間に、浅貝・二居・三侯・湯沢・関・塩沢・六日町・五日町・浦佐・堀之内・川口・妙見・十日町の十三宿があり、長岡・与板・地藏堂・中島・渡部と続いて、十八宿で寺泊に達した模様が描かれています。

堀之内は、越後側の十番目の宿場に当たり、正保国絵図からは、堀之内・浦佐間は、もとは浦佐村～十日町村（小出町）～小出島村を通る魚野川の東側（右岸）を往来していましたが、栃原峠の新道開削により、上りは浦佐へ、下りは川口へ継ぎ立てられるようになったことが推測されます。正保期以前より、栃原峠が三国街道の本道として使われていたこととなります。

この開削により浦佐～堀之内間は、小出島回りに比べて、距離にして半里ほど短縮されましたが、何よりも大きな利点は、浦佐と四日町の2箇所の渡しを通る必要がなくなり、越後側の三国街道は、和南津（川口町、現長岡市）の渡し1箇所を渡るだけで、長岡まで通行できるようになったことです。（資料：堀之内町史）

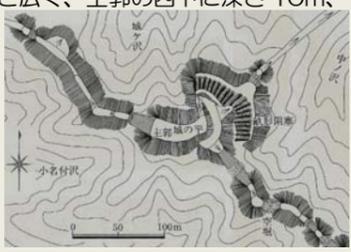


月岡公園からの眺望

月岡公園は、町制25周年（昭和25年）記念事業の一つとして整備が始まりました。公園の用地は堀之内古城跡、月岡農園及古長沢の池を含む約40町歩（ha）にわたります。現在、さらに旧営林署杉苗畑を含んで、さらに広大な総合公園となって親しまれています。

堀之内城

堀之内は別名を月岡城、古長沢城ともいい、285mの山城で、山頂付近は通称「城の平」と呼ばれています。主郭（城の平）は幅16～19m、長さ58mと広く、主郭の西下に深さ10m、幅1.5m、長さ10mの空堀があり、ここを北西へ尾根を下ると月岡公園に至ります。主郭の北側下には、主郭を堅固にするための15条の堅堀（畝形阻害）が構築されていて、通称「城の沢」が始まります。（資料：堀之内町史）



上越線と越後堀之内駅

「上越線」の上越とは、上州と越後を結んだことからついた名です。上越線は、大正5年に上越線建設計画が決定し、上越国境（清水トンネル）の難工事を克服し、昭和6年9月に全線開通しました。

上越線は、中央に清水峠を挟んで、南は前橋から上越南線、北は宮内から上越北線として順次工事が進められました。越後堀之内駅は、大正11年に工事が終わり、同年8月、越後川口から越後堀之内駅まで開通しました。ちなみに越後堀之内駅の名称ですが、当時東海道線に同名の「堀之内駅」があったため「越後」を冠して「越後堀之内駅」と名付けたようです。

昭和22年10月には全線電化となり、全線複線化は、新清水トンネルが完成した、昭和42年9月（一部複線化は昭和37年1月）です。越後堀之内駅（停車場）の開設に合わせ、まちの中心部から停車場に向かう広い道路がつけられ、停車場通りには、運送店・旅館・食堂などが相次いで建てられ「駅前通り」として賑わいました。

発行：平成25年3月
まちづくり交付金堀之内地区検討委員会

情報提供・問合せ
魚沼市役所土木課都市整備室
TEL:025-799-3134 FAX:025-799-4488
Email:toshiseibi@city.uonuma.niigata.jp